

1 基本理念

- (1) 構造的な問題解決に果敢に挑戦する
- (2) ふくしまの持つ潜在能力・強みを生かす
- (3) 未来を担う若者が、ふくしまの可能性を信じ、希望をかなえられる社会を実現する

2 基本目標

- (1) 県内に安定した雇用を創出する —しごとづくり—
- (2) 県内への新しいひとの流れをつくる —ひとの流れをつくる—
- (3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる —結婚・出産・子育て支援—
- (4) ひとと地域が輝くまちをつくる —まちづくり—

3 計画期間・位置付け

計画期間：5年間（平成27～31年度（令和元年度））

位置付け：「福島県総合計画」との整合を十分に図り、仕事を創り、ひとの好循環を生み出し、人口減少に歯止めをかける「地方創生」関連施策に特化した実行計画（アクションプラン）

【基本目標1】
県内に安定した雇用を創出する
—仕事づくり—

〔 現行戦略の体系 〕

(1) ふくしまに雇用・起業創出を図る

- ア 企業誘致等による雇用創出
- イ 起業促進等による雇用創出
- ウ 地域企業の競争力強化による雇用創出
- エ 県内金融機関等との連携
- オ 成長が期待される産業の育成・集積
- カ 高齢者などの再就職支援など多様な働き方の環境づくり

(2) 「仕事」を支える若者の定着・還流を促す

- ア 若年層の県外流出の抑制
- イ 県外若年層の県内還流の促進
- ウ 医療・福祉人材の育成・確保に向けた取組強化
- エ 建設産業の人材確保

(3) 農林水産業の振興を図る

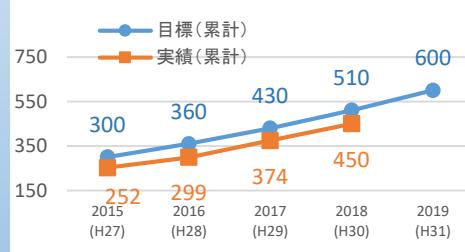
- ア 法人・企業等による安定雇用の創出
- イ 新規就業者に対する支援の強化
- ウ 稼ぐ視点での地域産業6次化の推進
- エ 消費者を見据えた販売促進

〔 主な取組 〕

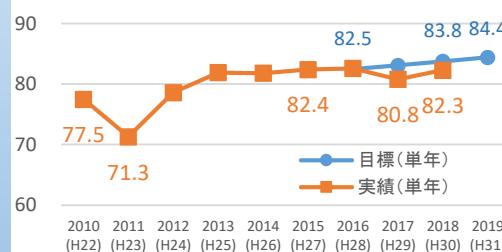
◆ 成長産業（再生可能エネルギー、医療機器、ロボット関連産業）の育成・集積を促進

◆ 大学、市町村、産業界等と連携し、インターンシップなどを通じて、地元企業等への理解促進

○工場立地件数(単位:件)

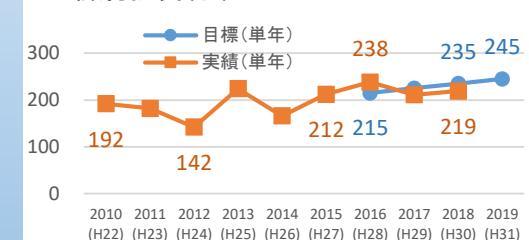


○新規高卒者の県内就職率(単位:%)



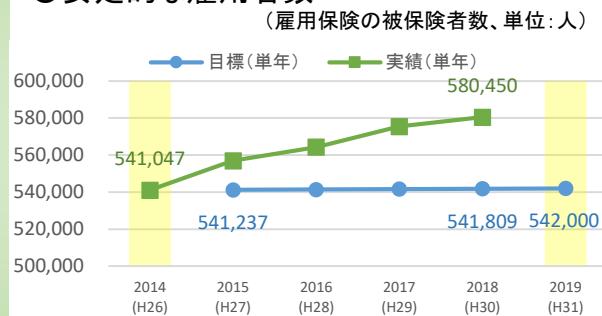
◆ 他産業との連携、民間活力の活用などにより成長産業化に取り組み、雇用創出や所得向上、販売力強化につなげる。

○新規就農者数(単位:人)



〔 主な成果目標の達成状況 〕

○安定的な雇用者数



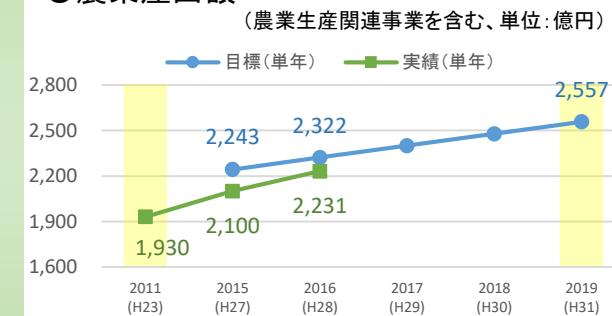
(基準)H26年:541,047人
→(目標)H31年:542,000人

○製造品出荷額等(単位:億円)



(基準)H25年:4兆7,625億円
→(目標)H31年:5兆4,628億円

○農業産出額



(基準)H23年度:1,930億円
→(目標)H31年度:2,557億円以上

〔 成果・課題 〕

〔成果〕成果目標の「安定的な雇用者数」は順調に推移。「新規就農者数」は2015年(H27年)以降、毎年200名超で推移。

〔課題〕生産年齢人口の減少等により、あらゆる分野で人手不足が顕在化しており、年齢や性別、障がいの有無などに関わらず働くことのできる働きやすい環境づくりや雇用環境の整備を進めていく必要がある。若者の県内への定着・還流が進むよう、魅力ある雇用の場づくりをさらに進める必要がある。

【基本目標2】

県内への新しいひとの流れをつくる
— ひとの流れをつくる —

〔 現行戦略の体系 〕

(1) 定住・二地域居住や若者等との交流を促進する

- ア 地域が求める人材の移住促進
- イ 移住者に対する就職支援の充実
- ウ 住まいの確保など定住・二地域居住を支える環境の充実確保
- エ 若者等と集落の交流促進

(2) 地域資源の発掘磨き上げや新たな魅力の創出により観光交流人口の拡大を図る

- ア 地域資源の発掘・磨き上げによる観光コンテンツの創出・交流人口の拡大
- イ メディア芸術（※）等を活用した観光コンテンツの創出・交流人口の拡大
- （※）メディア芸術：映画、漫画、アニメーション、CGアート、ゲームなどを利用した新しい分野の芸術
- ウ 戦略的な情報発信と受け入れ態勢の整備
- エ 東京オリンピック・パラリンピックを契機とした交流人口の拡大

【基本目標3】

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
— 結婚・出産・子育て支援 —

〔 現行戦略の体系 〕

(1) 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ア 結婚—独身男女の出会いに“世話をやく”地域社会の再創造—
- イ 出産—こどもを望む夫婦をしっかりサポート—
- ウ 子育て—官民あげた子育て環境の充実強化—

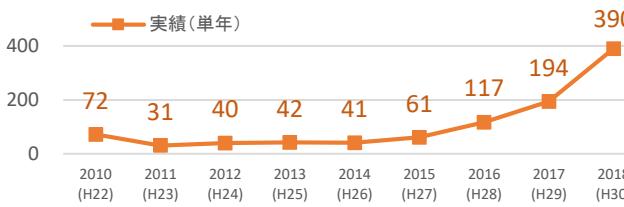
(2) 子育てを支える社会環境づくりを推進する

- ア 男女がともに子育てに関わることができるよう、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図ることができる環境づくりを推進
- イ 女性が活躍できる社会環境整備を図り、県内起業の人材確保や親となる若い世代の女性の県内定着を推進

〔 主な取組 〕

◆ 移住希望者に対する情報発信の強化、受入体制の整備を図るとともに、若者等と集落との継続的な交流を促進

○ 定住・二地域居住世帯数（県が把握できたものに限る、単位：世帯）



◆ ふくしまならではの観光素材を生かし、訪れたいふくしまを創出。

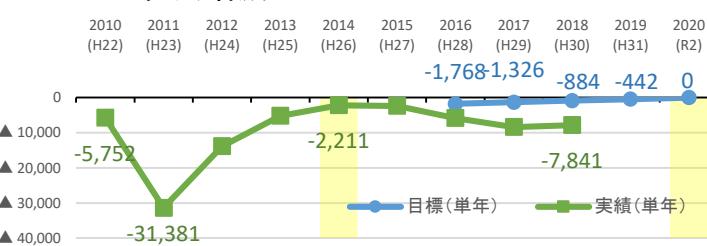
◆ 「ふくしまの魅力と今」がより伝わるよう情報発信。本県への理解・共感の輪を広げ、ひとの流れを呼び戻す。

○ 教育旅行の県内宿泊者数（単位：人泊）



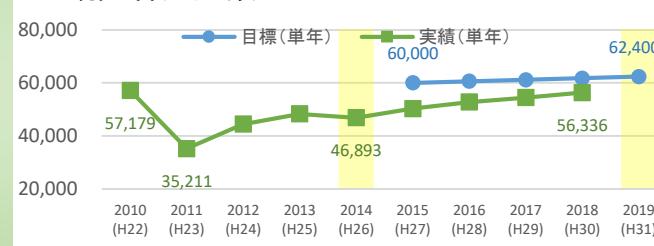
〔 主な成果目標の達成状況 〕

○ 人口の社会増減（単位：人）



(基準)H26年: ▲2,211人 → (目標)H32年: ±0人

○ 観光客入込数（単位：千人）



(基準)H26年: 46,893千人 → (目標)H31年: 62,400千人



〔成果〕「定住二地域居住世帯数」は増加傾向。「観光客入込数」や「教育旅行の県内宿泊者数」も回復傾向にある。

〔 成果・課題 〕

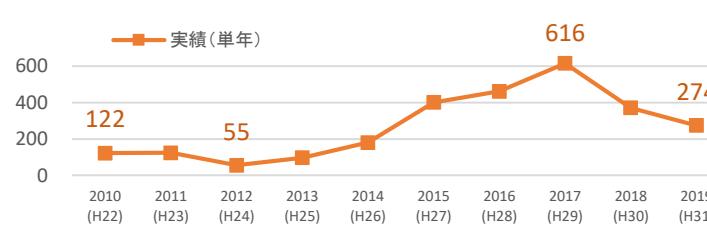
〔課題〕成果目標の「人口の社会増減」は、進学就職等に伴う若者の県外流出に歯止めがかからず、基準年2014年（H26年）よりも転出超過が拡大。若い世代が県内に定着できるよう環境整備を進めていく必要がある。

〔 主な取組 〕

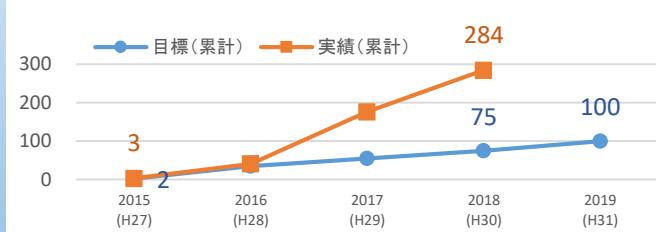
◆ 安心して子どもを生み、育てられる環境を整備する。

◆ 子育てと仕事の両立、男女が共に働きやすい環境づくりを推進する。

○ 保育所入所待機児童数（単位：人）



○ イクボス宣言をした企業数（単位：件）



〔 主な成果目標の達成状況 〕

○ 合計特殊出生率



(基準)H26年: 1.58 → (目標)H52(2040)年: 2.16

〔 成果・課題 〕

〔成果〕「合計特殊出生率」は基準年2014年（H26年）より低下しているものの、全国平均を上回り推移。

〔課題〕「保育所入所待機児童数」は2017年（H29年）以降、保育所の整備等により減少傾向にあるが、解消には至っていない。保育サービスの充実や男女ともに働きやすい社会環境づくりなど安心して子どもを生み育てられる環境の整備を進めていく必要がある。

【基本目標4】
ひとと地域が輝くまちをつくる
—まちづくり—

〔 現行戦略の体系 〕

(1) リノベーションによる魅力あるまちづくりに取り組む

リノベーション
再開発、既存のシステムの一部を利用し、新しいシステムを構築すること。ここでは地域の課題を解決し、既存の資源を生かした新しいまちづくりとする

- ア 廃校等を活用した交流拠点の整備
- イ 商店街の新たな価値の創造
- ウ リノベーションでまちの新たな魅力を創造

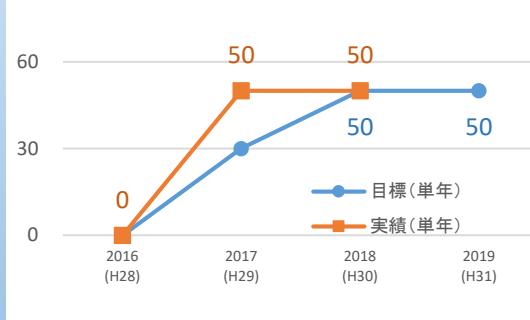
(2) 魅力的で活力あるまちづくりに取り組む

- ア ICTを生かしたまちづくりの推進
- イ 文化・スポーツ等によるまちづくりを支援
- ウ 安全・安心な暮らしが守られたまちづくりの推進
- エ 地産地消によるまちづくりの推進
- オ 民間団体や市町村等が行う地域振興・まちづくりの取組を支援

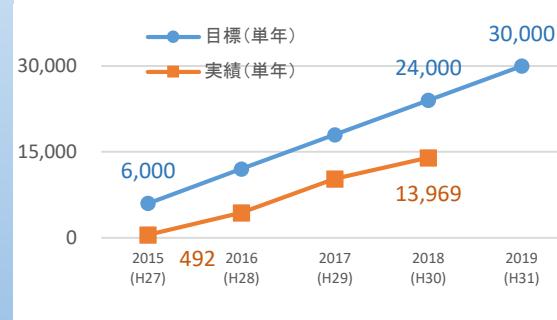
〔 主な取組 〕

◆地域資源を磨き上げ、魅力あるまちづくりを進める。

○リノベーションに取り組む市町村数
(単位:市町村数)

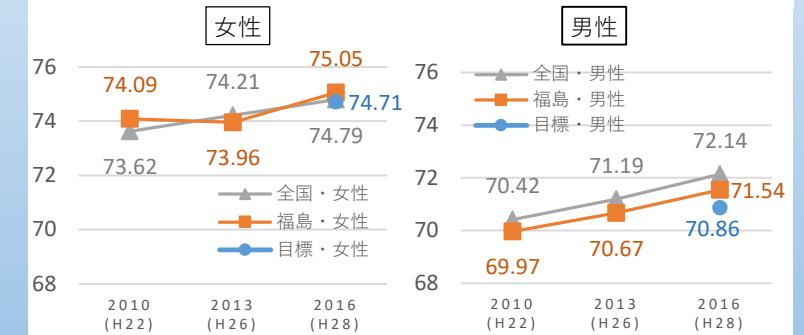


○ふくしま健民パスポート発行件数
(単位:件数)



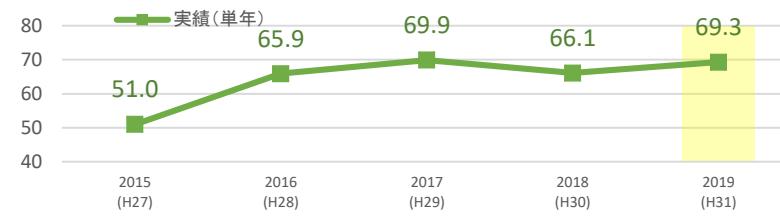
- ◆地域固有の文化・スポーツ等の地域資源を活用した魅力あるまちづくりに取り組む。
- ◆将来にわたり、健康で心豊かな暮らしが守られたまちづくりを目指す。

○福島県の男女別健康寿命(単位:歳)



〔 主な成果目標の達成状況 〕

○県民アンケートで「住んでいる地域が住みやすい」と思っている人の割合(単位:%)



(基準)H26年: → (目標)H31年: 上昇を目指す



〔 成果・課題 〕

〔 成果 〕 成果目標の「住んでいる地域が住みやすい」と思っている人の割合が近年7割近くで推移。

〔 課題 〕 人口減少が進む中で、①地域コミュニティや日常生活に必要な生活基盤(交通、買い物、医療、教育など)の維持、②地域文化の継承、③美しい自然・景観の保全など住みやすい地域づくりを進めていく必要がある。

Ⅱ 次期戦略の策定に際して留意すべき重要な視点

【県民の意識】

1 結婚・出産・子育て

(福島県調査 調査期間：令和元年5～6月 回答数2,486件 回答率27.6%)

- ◆理想的な子どもの人数 平均2.54人
- ◆実際の子どもの予定人数 平均2.23人

(1) 理想的な人数の子どもを持ってない理由

※「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合(複数回答)

- ① 子育てや教育にお金がかかりすぎる(72.0%)
- ② 子育ての精神的・肉体的負担が大きい(50.6%)
- ③ 末の子が自分(配偶者)の定年までに成人してほしい(42.7%)

(2) 子育て環境や少子化対策で期待すること ※「特に重要」と回答した方の割合

- ① 経済的な支援(児童扶養手当の拡充、医療費助成保育料軽減など)(44.7%)
- ② 教育費用の軽減、奨学金制度の充実(32.6%)
- ③ 保育所等の整備や放課後児童クラブの充実(18.3%)

(3) 現在独身でいる理由 (複数回答)

- ① 異性と出会う機会がない(29.6%)
- ② 理想の相手にまだ会えていない(23.5%)
- ③ 独身の自由さや気楽さを失いたくない(20.8%)
- ③ 結婚資金が足りない(20.8%)

2 進路希望

【高校生】(福島県調査 調査期間：令和元年7～9月 回答数12,507件 回答率47.2%)

(1) 進路希望

◆高校卒業後の進路〔希望〕

- ① 進学(69.3%)
- ② 就職(24.9%)
- ③ 未定(5.7%)

◆進学希望者〔希望する学校の所在地〕

- ① 関東(32.0%)
- ② 県内(26.8%)
- ③ 東北(本県以外)(18.3%)

◆就職希望者〔希望する勤務地〕

- ① 県内(45.1%)
- ② 関東(16.2%)
- ③ 東北(本県以外)(6.9%)

(2) 県内の進学を増やすための条件・環境(複数回答)

- ① 県内に魅力ある大学等がある(34.7%)
- ② 県内で希望する学問・技術を学べる(31.5%)
- ③ 県内で進学した場合、学費が減免される(26.4%)



(3) 県内の就職を増やすための条件・環境(複数回答)

- ① 働きたいと思える雇用の場がある(45.6%)
- ② 安定した雇用の場がある(34.3%)
- ③ 仕事と生活を両立できる(24.2%)

【大学生】(福島県調査 調査期間：令和元年7～9月 回答数1,350件 回答率29.3%)

(1) 県内の進学・就職(Uターン含む)を増やすための条件・環境(複数回答)

- ① 働きたいと思える雇用の場がある(39.6%)
- ② 県内に魅力ある大学等がある(32.6%)
- ③ 安定した雇用の場がある(29.9%)

(単位：%)

県内への居留意向	高校生	大学生
ずっと住みたい	12.6	21.6
一度は県外に出て、戻ってきたい	33.7	28.0
住みたくない	15.1	12.5
分からない	38.6	36.9

3 定住・二地域居住希望

(福島県調査 調査期間：平成30年7～31年2月 回答数902件 回答率12.2%)

(1) 移住にあたり不安な点(複数回答)

- ① 収入の確保(33.5%)
- ② 仕事の確保(28.8%)
- ③ 冬の寒さ、積雪(27.1%)

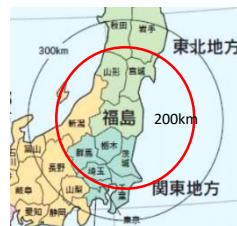
(2) 特に必要だった情報(複数回答)

- ① 生活環境(55.7%)
- ② 住居(48.9%)
- ③ 就職・転職(35.2%)



【本県の特性】

- 1 広大な県土、豊かな自然環境
- 2 特色ある県土構造
- 3 有利な地理的条件
- 4 多様な産業構造
- 5 豊かな地域資源
- 6 ゆとりある生活環境、温かな県民性、暮らしやすさ
- 7 復興の取組を通じた、様々なチャレンジができるフィールド



【分野横断的な視点】

- 1 SDGs(持続的な開発目標)の推進
- 2 Society 5.0(第5の新たな社会)への対応
- 3 地方創生の取組を支える人材の育成
- 4 様々な人がつながり、支え合うコミュニティの形成
- 5 健康まちづくりの推進
- 6 ひと、資金の流れの強化
関係人口の拡大、寄附や投資等を促す仕組みづくりなど

1 基本理念

「ふくしまならでは」の地方創生を推進
 —「復興・再生」と「地方創生」を両輪で推進—

- ① 「ふくしまプライド。」を追求するための、一人ひとりの思いを大切に、挑戦を支える社会の実現
- ② それぞれの強みを発揮し、相互に連携・共働する社会の実現
- ③ 「ふくしま」の地で挑戦する姿を見て、自分も挑戦したくなる、人が人を呼び込む（あこがれの連鎖）を生む社会の実現

2 基本目標

- (1) 一人ひとりが輝く社会をつくる (人)
- (2) 魅力的で安定した仕事をつくる (仕事)
- (3) 暮らしの豊かさを実感できる地域をつくる (暮らし)
- (4) 新たな人の流れをつくる (人の流れ)

3 計画期間・位置付け

計画期間：5年間（令和2～6年度）
 位置付け：「福島県総合計画」との整合を十分に図り、仕事を創り、ひとの好循環を生み出し、人口減少に歯止めをかける「地方創生」関連施策に特化した実行計画（アクションプラン）

基本目標1

一人ひとりが輝く社会をつくる (人)

(1) 一人一人の希望をかなえる(基本理念①、②)



○結婚・出産・子育て支援の希望をかなえる

(結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援)

○仕事と生活の両立の希望をかなえる

男女がともに仕事と家庭を両立できる環境づくり、男性の育児・介護等への参加促進、多様で柔軟な働き方の普及など

○次代を担う子ども・若者の希望をかなえる

子どもの人権の尊重、子どもたちの多様な学びの場の確保、魅力的な教育環境の整備など

○誰もがいきいきと活躍できる社会環境をつくる

(年齢や性別、障がいの有無などにかかわらず誰もが活躍できる環境づくり)

(2) 健やかな暮らしを支える(基本理念①、②)

○心身ともに健やかな暮らしを支える

(健康づくりの推進、保健・医療・福祉の連携など)

(3) 地域を担う創造性豊かな人を育てる(基本理念①、②)

○ふるさとへの愛着・誇りを育む

幼い頃から地域の魅力にふれあう機会の提供、郷土愛を育む、地域を担う人材育成など

○心豊かでたくましい人を地域全体で育てる

地域の主体的・自立的な地域づくりの担い手育成
 会津大、福島大、復興知に関わる大学等からの学び

基本目標2

魅力的で安定した仕事をつくる (仕事)

(1) 活力ある地域産業を支え、育てる(基本理念①、②、③)

○未来を拓き復興を牽引する新たな産業を育てる

イノベ構想、医療機器、航空宇宙産業、ICT、ロボット、再生可能エネルギー等、企業誘致（本社機能、開発・研究拠点等）

○しなやかで力強い地域産業を支える

(県内中小企業の振興、事業再生・承継・転換)

○地域資源をいかした産業を振興する

(起業創出、観光、6次化との連携)

○国内外への販路を開拓する

(連携協定等の活用、商談会参加等への支援)



(2) 魅力ある農林水産業を展開する(基本理念①、②、③)

○意欲ある担い手を育てる

法人・企業による安定雇用、多様な担い手の育成（新規就農者、農業女子等）、冬季の雇用確保

○魅力と満足度の高い農林水産物を提供する

品質の高い商品の生産、GAP認証取得の推進、消費者の志向を踏まえたストーリーのある商品づくり、6次化

○スマート農業の推進

(新たな技術を活用した生産性向上)

○過疎・中山間地域における農林水産業の維持

(景観保全、水源涵養等の多様な視点から⇒耕作放棄地の解消)

(3) 若者の定着・還流を支える(基本理念①、②、③)

○地域産業への理解を深める

(幼い頃から地域の魅力や産業にふれる機会の創出)

○若い世代の県内への就業を促進する

(若年層の県内定着の促進、県外若年層の県内への還流促進)



基本目標3 暮らしの豊かさを実感できる地域をつくる(暮らし)

(1) 安全で安心な暮らしをつくる(基本理念①、②)

- 多様な人が参加・連携する地域づくりを進める
(地域に住む人それぞれが役割を持ち、生き生きと暮らせるための取組)
- 避難解除地域における生活基盤を確保する
- 過疎・中山間地域における生活基盤を維持・確保する
(日々の暮らしに必要な生活基盤(交通、買い物、医療、教育等)の維持・確保
※新たな技術も活用)
- 災害に強いまちづくりを進める
(東日本大震災の教訓の伝承など)

(2) ゆとりと潤いのある暮らしをつくる(基本理念①、②)

- 地域の特性をいかしたゆとりある生活空間を守り、引き継ぐ
(豊かな自然、美しい景観、地域固有の歴史、伝統文化など)
- 持続可能な歩いて暮らせるまちづくりを進める
(空き家、空き店舗の活用など)
- 賑わいのある生活空間をつくる
(まちなかの活性化、廃校等を活用した交流拠点の整備など)
- 文化とスポーツの振興による地域づくり
(合唱、伝統芸能、スポーツの振興など)



(3) 環境に優しい暮らしを支える(基本理念①、②)

- 省資源、省エネルギー、再生可能エネルギーの利活用推進
(環境・経済・社会の好循環につながる取組、スマートコミュニティの推進、
本県産クリーンエネルギーの販売による地域還元など)

基本目標4 新たな人の流れをつくる(人の流れ)

(1) 地域の多様な魅力を発信する(基本理念①、②、③)

- 「ふくしまならではの」魅力を発信する
(自然、歴史、伝統文化、食、温かな人柄、「チャレンジの場」としての魅力
地域資源の発掘・磨き上げによる観光コンテンツの創出など)
- 「ふくしま」で輝いている人の魅力を発信する(=あこがれの連鎖)
(あこがれの存在と繋がるために福島との結びつきを強化)

(2) ふくしまへ新しい人の流れをつくる(基本理念①、②、③)

- 地域の内と外とをつなぐキーパーソンの発掘・育成
(受入れ側の体制整備、地域おこし協力隊の任期満了後の活動支援など)
- 定住・二地域居住へつなげる働く場と住まいの確保への一体的支援
(副業・兼業により地域で暮らすことのできるモデルの提示)
- 本県と関わりのある人(関係人口)との交流促進、交流人口の拡大
(若者等と地域との交流促進など、福島県との関係性の強化)

(3) 避難解除地域への移住の促進や交流人口、関係人口の拡大など、
新たな活力を呼び込むための取組(基本理念①、②、③)

(雇用確保等の課題を踏まえた、生活環境の魅力発信と合わせた新たな住民の呼び込み)



【推進・検証体制】

1 施策・事業の推進

「ふくしま創生総合戦略」の理念や目標を共有し、連携・共働して取組を推進

- 市町村との連携 - 県と市町村が同じ方向を向きながら取組を推進
- 県民の皆さん、NPO、企業、地域づくり団体など多様な方々との連携・共働により取組を推進
- ふくしまを応援して下さる方々との連携・共働により取組を推進

2 PDCAサイクルの推進

(1) 数値目標・KPIの設定

○基本目標ごとに成果を重視した数値目標を掲げるとともに、具体的な施策ごとにKPI(重要業績評価指標)を設定し、施策の効果検証・改善を行う仕組み(PDCAサイクル)を構築

(2) 推進・検証体制

○有識者で構成される「福島県地域創生・人口減少対策有識者会議」において、戦略の達成度等を検証